

答辞

吹き抜ける風のやわらかなあたたかさに、確かな春の訪れを感じる3月。本来ならば、慣れ親しんだ学び舎を巣立ち、新たな場所へ旅立つことへの期待に胸を膨らませているはずでした。しかしながら、今年は残念ながら新型コロナウイルス感染症が世界中を蝕んでおります。国内では様々な行事や催事を自粛する動きとなり、全国的に卒業式等を中止する教育関係機関も多くあると聞き及んでおります。そのような中、理事長先生、学院長先生、学長先生をはじめとする諸先生方、職員の皆様には、私たちのためにわざわざこのような門出の場を用意してくださいましたこと、修了生を代表して心より御礼申し上げます。

私たち人文科学研究科修了生は、それぞれ独自の研究テーマを掲げ、相応の成果を得ることを目的に入学して参りました。私たちが大学院生として研究を行ってきたこの2年間は、壁にぶつかることも多く、それぞれにおいて決して楽とはいえない道のりだったと思います。しかし、そのような困難と真剣に対峙した時、私たちは試行錯誤を経て「困難」を「発見」に変え、それぞれの研究に昇華して参りました。2年間を通して得られたものは、ひたむきに努力を続ける粘り強さ、困難に対して諦めずに向かっていく精神力、適切に物事を判断・処理していく能力だったように思います。これらの力は、現代社会において、私たちが臨機応変に対応していく上で今後最も必要になるものと確信しております。

私はこれまで中世軍記物語たる『保元物語』について研究を行ってまいりました。保元の乱は、日本が貴族社会から武士社会へと変わっていく転換期として位置づけられる戦です。私は修士論文において『保元物語』の語り手は従来の価値観が崩壊し、新たな価値観が生み出される様を描き出している、と論じました。現代の日本では、保元の乱のように武力を行使して世の中が変わる、ということは起こり得ません。しかし、今の日本は確かに歴史の転換期にあたっているのだと思います。今年度は天皇の譲位が行われ、元号も平成から令和に変わり、時代の変化を肌で感じる出来事もありました。また昨今のAIをはじめとする科学技術の目覚ましい進歩にも心底驚かされます。しかし、一方では、今回のように瞬く間に広がった新型ウイルスのごとく、どんなに科学技術が進歩しても、容易に対抗する術を見いだせず、みえない恐怖に煽られてしまう、という現実があります。このような社会の中で生きている私たちは、いずれ訪れるであろう新たな時代の担い手として、現在を、そして過去を未来に語り継ぐ使命があります。『保元物語』のような軍記物語が「古典」として、また「文学」として、21世紀の現代にまで生き残った所以は、そこに語るべき内容があり、また後世になにがしかを「伝えなければならない」という明確な意思があったことによるのではないのでしょうか。文学によって継承されてきた日本人の「伝える」という姿勢を、今後私もしっかりと受け継いでいきたいと思います。

私は、2年前の入学式で新入生総代として挨拶を務めさせていただいた際、採用猶予の特例によって進学を許された以上「高い専門性で見識を有した教員になることを目指します」と申し上げましたが、この2年間、本学大学院で古典から近現代の日本文学や日本語学、さらには中国文学にいたるまで、幅広い知識を得ることができたことは非常に幸運でした。4月から仙台市の教員として教壇に立つことに、全く不安を感じていないわけではありません。しかし、私には学部の4年間、さらに大学院生として2年間、この宮城学院で学び、研究を行ってきたことで培ってきたものがあります。それは専門分野以外にも深めることができた知識と、言葉と向かい合う姿勢です。それが教員として私が持つ専門性であり、強みでもあります。定められた指導事項をわかりやすく教えていくことは教職の大前提です。一方で、国語という教科が内包する文学や語学、あるいは文化といった「教養」を伝えていくことも、国語科の教員の使命だと思います。私には、これから出会う生徒たちに日本語や言葉に関心を持ち、「教養」に価値を見いだせる人になってほしい、という願いがあります。自分がそれを伝える力を持つ教員になれるよう、初心を忘れず日々精進して参りたいと思います。

最後になりましたが、今日まで私たちをあたたくご指導いただきました理事長先生、学院長先生、学長先生をはじめとする諸先生方、並びに多方面から支援してくださった職員の皆様に改めて御礼申し上げます。更に、私たちを支えてくれた家族たちにも感謝したいと思います。

答辞を終えるにあたり、皆様の御健勝と御多幸をお祈り申し上げるとともに、宮城学院女子大学および大学院のより一層の発展を祈念申し上げます。

2020年3月19日

宮城学院女子大学大学院 人文科学研究科

第24回修了生総代 日本語・日本文学専攻 阿部日菜子